

お話と劇と

長尾

豊

三八

劇ごつこのお話あそびをするのに、お話がすぐに劇として演出されるものと、手軽く考へる人があつたら、恐らくその人はお話あそびを試みて失敗するであらう。なぜと言へばお話と劇とは根本において異なつたふたつのものだからである。

言ふまでもなくお話の叙述は叙事的であつて、劇の描寫は劇的でなければならぬ。叙事的と劇的と、根本において既に兩者の相違が明らかである。たとへばお話の方で斯様々々の次第とか、コレ／＼かういふわけでといふやうな省叙を、そのまま劇中の人物の言葉としてステエヂの上で話させるわけにはいかない。もつとも初期の劇的なもの、又その形を持ち傳へたものは半ば叙事的な叙述をその中に持つてゐる。お伽草子や古淨瑠璃を受けてゐる近松の初期の院本には、「何をか包まん横笛とは斯様々々の次第……」といふやうな叙事脈が隨

所に散見してゐる。

お話を戯曲形に、脚本體に書直してあるものゝ中にも、地の文の説明を平氣で人物の獨白にして一切を分らせようとする人もある。近來ドイツの表現派が獨白を採り用ひて、カナリ長いひとりざりふを用ひ、それでもつてひと場面を埋めるやうな事をする前までは、獨白は舊いもの、舊い劇の形とされてゐた。兒童劇學校劇が此の常套的な獨白を採り用ひて、劇の説明にかへてゐたのは、舊い劇の形を採つてゐたから悪いのではなくて、演者が動き、場面が活動する劇の説明を採らないで、舊套をもつて間に合はせ、動けない劇をいよゝ動けないものにして、しかもそれを活動的な小さい演者に與へようとしたから間違つてゐると言つて批難されるのである。

二

すぐれた童話のほとんどすべてがもつてゐる事件の反覆、同じことや似たやうなことが漸層的に、累積的につみ重ねられ、いち／＼繰返してゆく形なども、お話形としての面白味であつて、これを戯曲形に書直すことは、ニュウトン學校のブライス女史がその反覆を活用して幼兒演出における同じ言葉をたび／＼使ふことから、覺える分量がすくなく、且つ同じも

のを繰返すので言語習得の便があるとし、さかんにそれを使つて戯曲化を試みたまで、お話劇化の道に横たはる障礙物のひとつとなつてゐた。

童話のやうな變幻きはまらない超自然力の活動、長年月に跨つたりそれを勝手に飛越したり、時所も定かならず、場面の轉換も頻繁なものが、どうして幼児演出の材料となり得るか。これはお話興味の方から見て、童話の一種と幼兒噺、子守ばなしの多くが採られることで解決されよう。場面も人物も多くない寓話は、その寓意のために幼兒演出となり憎いものがない。くなくない。

「ハバアド婆さんとその飼犬」や、「笛吹息子のトム」のやうなマザアグウスの童話の劇化も、外國では幼兒演出の材料となつてゐる。けれどもこれはマザアグウスに親しみのないわが國の兒童に取つて、同じやうに喜ばれ、同じ程度に演ぜられるべきものかどうか疑はしい。

お話のどこをどう採つてある場面の中にまとめる、劇の形にすることが出来るか、お話を扱は劇ではないから、元よりひと場面にまとめる、ある定まつた場面を表示するといふやうなことは要らないとしても、劇的の別名である緊縮といふことを忘れるわけにはいかない。

そのまゝ立つて演ぜられるお話劇、戯曲讀本といふものが西洋にはあるが、實演用の脚本

集といふものからして劇にも、児童にも、ステエヂにも、教育にも關係のないものが多いわが國には、そのまゝ演ぜられるといふやうなお話集はない。

三

かやうにお話と劇とのふたつを並べて少しく考へて見ると、餘り親近なものとも思はれず、すぐ聞いたまゝを立つて演じて見るといふやうなことが出来ないことさへ思はれて来る。けれどもそれは大人が机の上で考へた所で、實際児童の間ではそんなことが容易に解決され、雑作なく片附けられてゐる。活動的な、仮想的な児童がお話を半戯曲的に、演出し得るものとして扱つてゆく態度と能力は、實に驚歎に値する。けれどもわれ／＼大人はいたづらに驚歎してばかり居ないで、本質的なお話のしらべから、更に本質的な劇の、教育演劇のしらべに進出して、ハンブルな相談相手となりたいものである。児童の凝魂、児童生活の凝視以外に、これらお話のしらべや教育演劇のしらべを實際化する何物もないと考へる。